

Platynectes chujoi Satô, 1982

日本産マルカッコウムシ属 *Allochotes* 概説

村上広将

〒790-8566 松山市樽味3-5-7 愛媛大学環境昆虫学研究室

Notes on the taxonomy of the genus *Allochotes* from Japan

Hiroyuki MURAKAMI

はじめに

これまで筆者は、日本と台湾産種のマルカッコウムシ属 *Allochotes* Westwood, 1875 の分類学的再検討を行い、その分類体系を整備してきた (Murakami & Yamasako, 2012; Murakami *et al.*, 2013; Murakami, 2014; Murakami & Yang, 2014). 本稿では、Murakami (2014) を基に日本産本属について解説する。

なお、本解説の基となる Murakami (2014) は、2014 年度日本甲虫学会論文賞を授与頂いた。この場を借りて、論文を推薦頂いた方々、編集、査読頂いた方々、本研究にご助力頂いた方々に厚く御礼申し上げる。また、本稿執筆の機会を与えて頂いた吉富博之准教授 (愛媛大学ミュージアム) に深く感謝申し上げます。

マルカッコウムシ属とは

マルカッコウムシ属は、旧北区 (日本, 中国)・東洋区・ニューギニア・セーシェルに分布し、これまでに 29 種が記載されている。食性を含め生態の大部分は未知で、ビーティングやライトトラップで稀に採集される。日本と台湾産の種では訪花性が認められるほか、倒木上を歩行しているところが目撃されている。幼虫はこれまで知られていない。

本属は、日本から知られるツツカッコウムシ属 *Tenerus* やクリイロカッコウムシ属 *Platytenerus* と同様に、近年設立されたツツカッコウムシ亜科 (和名新称) Neorthopleurinae に含まれる (Opitz, 2009;

Murakami, 2015)。以前は、ノコヒゲカッコウムシ亜科 Enopliinae や Kolibáč (1997) が提唱する広義のホシカムシ亜科 Korynetinae の 1 属として扱われてきた (Corporaal, 1950; 宮武, 1985; Löbl *et al.*, 2007 など)。丸い体型と鋸歯状の触角によりツツカッコウムシ亜科の他属とは容易に識別され、形態形質に基づく系統解析では、マダガスカル島固有の *Patuleius* 属と姉妹関係にあることが示唆されている (Opitz, 2013)。

日本産の各種解説

日本からは、ムネアカマルカッコウムシ、ミツモンマルカッコウムシ、アマミマルカッコウムシの 3 種が知られていた。そのうちの 1 種ムネアカマル *A. dichrous* は、日本本土に広く分布し、上翅が細長い個体群と丸い個体群が知られていた (酒井, 2005; 堀口・須田, 2011) が、両個体群の外部形態を比較した結果、それぞれ別種であることがあきらかとなった。真のムネアカマルは Lewis (1891) により 2 個体の標本 (シタイプ) を基に記載され、それらシタイプである 2 標本 (ロンドン自然史博物館収蔵の 1 標本と、愛媛大学から偶然発見された 1 標本; 後者シタイプは現在、台中の台湾農業試験所に収蔵される) はともに上翅が丸かった。そこで上翅が細長くなる個体群を新種ナガマルカッコウムシ *A. sakaii* として命名記載した。

以上の結果、日本からは 4 種が確認された。

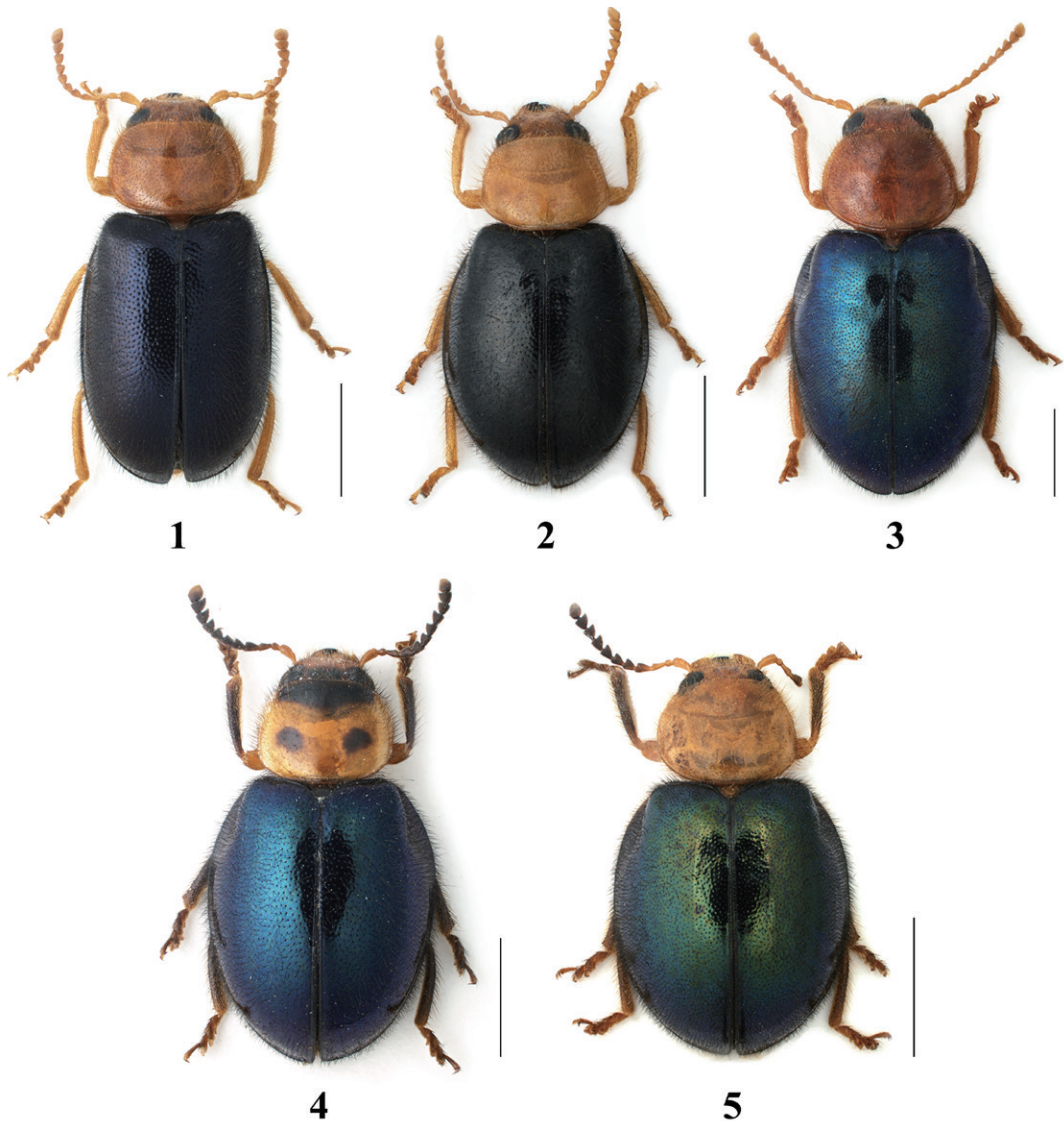


図1-5. 日本産マルカッコウムシ属4種の背面図. 1, ナガマルカッコウムシ; 2, ムネアカマルカッコウムシ; 3, アマミマルカッコウムシ; 4, 5, ミツモンマルカッコウムシ (4, 奄美大島産; 5, 沖縄島産). スケール: 2.0 mm.

ナガマルカッコウムシ *Allochotes sakaii* Murakami, 2014

体長 5.4–7.8 (平均 6.6) mm. 上翅が細長く黒紫色である点で (図 1), 他の日本産の種と区別される。触角は弱く鋸歯状 (図 8), 小髭末端節は幅広い (図 13)。

本種は, 次種と古くから混同されており, 中根 (1963), 宮武 (1985), 岡島監修 (2014) などの図鑑類ではムネアカマルカッコウムシとして図示されている。ブナ帯のライトトラップで採集されるほか, 倒木や樹勢が衰えた樹木上を歩行しているところが目撃されている。飼育下では給餌した甲

虫の死体を摂食するのが観察された (図 6)。

出現時期: 7月中旬～9月初旬。

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州 (図 15)。

ムネアカマルカッコウムシ *Allochotes dichrous* (Lewis, 1891)

体長 4.2–6.4 (平均 5.4) mm. 上翅は丸く黒紫色で, 光沢は鈍い (図 2)。触角は弱く鋸歯状 (図 8), 小髭末端節は細長い (図 13)。

酒井 (2005) や堀口・須田 (2011) で図示された標本は本種であるが, その他の図鑑類で図示されてきたのは前種であったことから, これ以外の



図6. 死んだナガチキムシの1種を摂食するナガマルカッコウムシ（飼育下）。

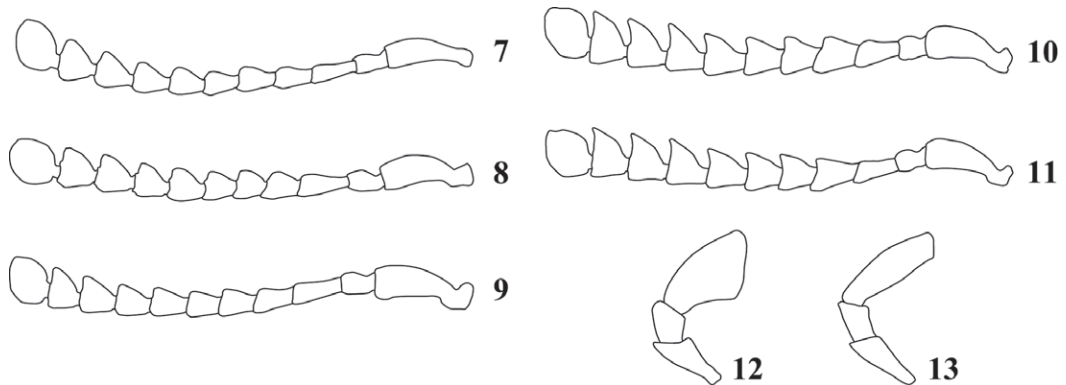


図7-13. 7-11, 触角; 12, 13, 小股肢先端節. 7, 12, ナガマルカッコウムシ; 8, 13, ムネアカマルカッコウムシ; 9, アマミマルカッコウムシ; 10, 11, ミツモンマルカッコウムシ (10, 奄美大島産; 11, 沖縄島産)。

既知の記録はナガマル *A. sakaii* の可能性が高く、再検討を要する。台湾からの記録は、Schenkling (1912) によるもので、これについては記録の基になった標本を確認している (Murakami *et al.*, 2013)。

出現時期：7月中旬～8月下旬。

分布：北海道，本州，四国；台湾（図15）。

アマミマルカッコウムシ *Allochotes yuwanensis* Yajima & Nakane, 1969

体長 5.8–10.5 (平均 8.1) mm. 触角は弱く鋸歯状 (図9)，小股髯末端節は幅広い。上翅は光沢のある青もしくは青緑色，上翅以外は赤褐色。

基準産地は奄美大島で，南西諸島に広く分布している。最近では宮崎県から確認されている (堤内，2013)。林道沿いのイジユの花を掬うことで多数得

られている (Murakami, 2014) ほか，ススキのピーティング (田中，1995)，シイ類のスウィーピングでも採集される。

出現時期：4月初旬～8月初旬。

分布：九州 (宮崎)，屋久島，奄美大島，沖縄島，石垣島，西表島 (図15)。

ミツモンマルカッコウムシ *Allochotes amamioshimanus* Miyatake, 1965

体長 6.2–9.4 (平均 8.0) mm. 触角は強い鋸歯状 (図10, 11)，小股髯末端節は細長い。

本種は基準産地の奄美大島からのみ知られており，前胸背板に3つの黒紋を備えることで日本産他種と区別されてきたが，前胸背板の黒紋を欠き，触角・脚の色が明るくなる個体群が沖縄島新川か

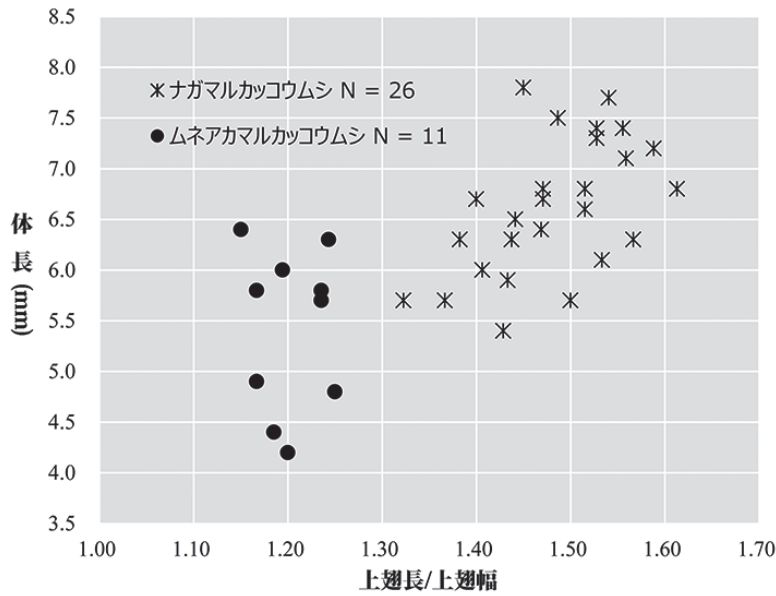


図14. ナガマルカッコウムシとムネアカマルカッコウムシの上翅計測値散布図.

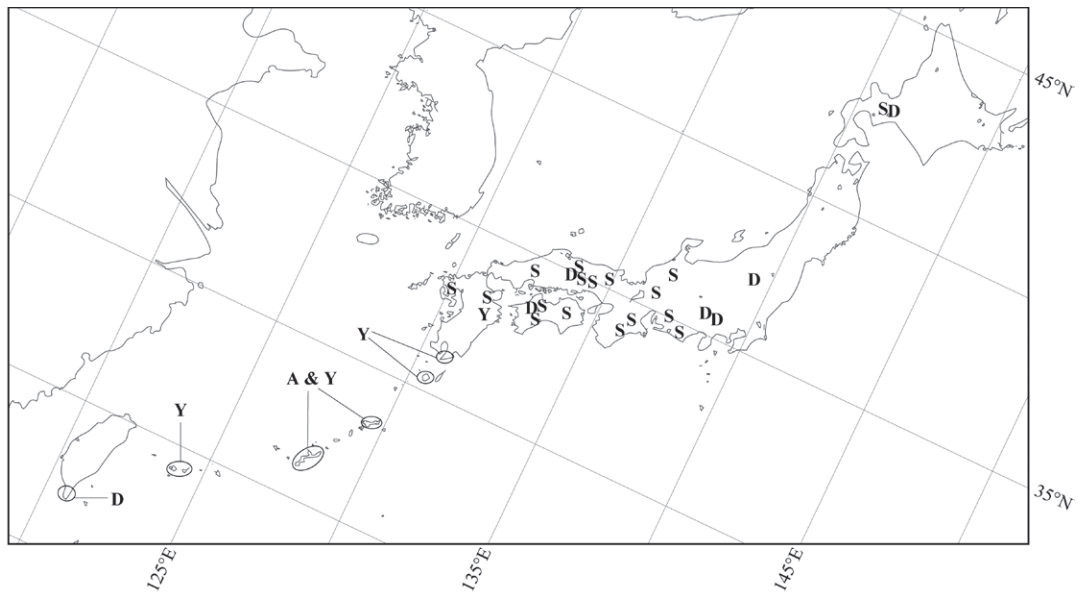


図15. 日本産種の分布図. S, ナガマルカッコウムシ; D, ムネアカマルカッコウムシ; Y, アマミマルカッコウムシ; A, ミツモンマルカッコウムシ. 主にMurakami (2014)の標本データより作成.

ら確認された (図4, 5).

出現時期: 3月初旬~4月下旬.

分布: 奄美大島, 沖縄島 (図15).

日本産マルカッコウムシ属の種への検索表

Murakami (2014) より改変

1. 触角第4-10節は強く鋸歯状 (図10, 11) ; 触角, 脛節, 跗節の大部分は黒茶色; 前胸背板に3つの黒い斑紋を備えるか, もしくはこれを

- 欠く.....ミツモンマルカッコウムシ
- 触角第4-10節は弱く鋸歯状 (図7-9) ; 触角, 脛節, 跗節は黄褐色もしくは赤褐色; 前胸背板に黒い斑紋を備えない.....2
- 2. 上翅は金属光沢のある青もしくは青緑色; 上翅以外は赤褐色..... アマミマルカッコウムシ
- 上翅は鈍い光沢のある黒紫色; 上翅以外は黄褐色.....3
- 3. 小髭髯末端節は幅広い* (図12) ; 上翅は細長

- い, 上翅長/上翅幅 1.4-1.6 (平均1.5) ** (図13) ; 上翅点刻は強く大きい.....
.....ナガマルカッコウムシ
— 小腮髭末端節は細長い (図13) ; 上翅は丸い, 上翅長/上翅幅 1.1-1.2 (平均1.2) (図13) ; 上翅点刻は細かい.....
.....ムネアカマルカッコウムシ

*Murakami (2014) で “elongate” としているが, 正しくは wide である.

**原著で “EL/ EW 1.1-1.6 (1.5)” とあるが, 誤値である.

引用文献

- Corporaal, J.B., 1950. Coleopterorum Catalogus, Supplementa. Pars 23 (Editio secunda): Cleridae. W. Junk, Gravenhage, 373 pp.
- 堀口 徹・須田 亨, 2011. 群馬県のカッコウムシとナガクチキムシ. 乱舞, (29): 105-118.
- Kolibáč, J., 1997. Classification of the subfamilies of Cleridae (Coleoptera: Cleroidea). Acta Musei Moraviae, Scientiae naturales, 81 (1/2): 307-361.
- Lewis, G., 1891. On a new beetle from Japan. The Entomologist's Monthly Magazine, 27 (2): 210.
- Löbl, I., Rolák, J., Kolibáč, J. & Gerstmeier, R., 2007. Family Cleridae Latreille, 1802. Subfamily Korynetinae Laporte, 1838. Pp. 381-384. In: Löbl, I. & Smetana, A. (Eds.), Catalogue of Palearctic Coleoptera. Vol. 4. Apollo Books, Stenstrup, 537 pp.
- 宮武睦夫, 1985. カッコウムシ科, p. 151-160, pls. 24-25. 佐々治寛之, 久松定成, 黒澤良彦 (共編), 原色日本甲虫図鑑 III. 保育社, 大阪, x + 500 pp, 72 pls.
- Murakami, H. & Yamasako, J., 2012. Two new species of the genus *Allochotes* (Coleoptera: Cleridae: Neorthopleurinae) from Taiwan. Zootaxa, 3564: 47-53.
- Murakami, H., Yamasako, J., Chou, W. -I. & Yang, G., 2013. Review of the genus *Allochotes* (Coleoptera: Cleridae: Neorthopleurinae) from Taiwan. Zootaxa, 3710 (6): 565-577.
- Murakami, H., 2014. Revision of the genus *Allochotes* (Coleoptera, Cleridae) from Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 4 (1): 95-110.
- Murakami, H. & Yang, G., 2014. A new species of the genus *Allochotes* (Coleoptera: Cleridae) from Taiwan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20 (2): 305-307.
- Murakami, H., 2015. The genus *Platytenarus* Miyatake, 1985 (Coleoptera: Cleridae: Neorthopleurinae), with description of a new species from Japan. Zootaxa, 3936 (4): 584-592.
- 中根猛彦, 1963. カッコウムシ科, p. 182-184, pls. 91-92. 中根猛彦, 大林一夫, 野村 鎮, 黒沢良彦 (共編), 原色日本昆虫大図鑑第2巻 (甲虫篇), 北隆館, 東京, 443 pp, 192 pls.
- 岡島秀治, 2014. 昆虫 (学研の図鑑 LIVE (ライブ)). 岡島秀治監修, 学研マーケティング, 272 pp.
- Opitz, W., 2009. Classification, natural history, and evolution of Neorthopleurinae subfam. nov. (Coleoptera, Cleridae) Part I. Generic composition of the subfamily and key to genera. Entomologica Basiliensia et Collectionis Frey, 31: 135-207.
- Opitz, W., 2013. Classification, natural history, and evolution of Neorthopleurinae Opitz (Coleoptera, Cleridae). Part III. The Genera *Agaphalera* Opitz, *Allochotes* Westwood, *Kataspinula* Opitz, *Lebasiella* Spinola, *Loedelia* Lucas, *Patuleius* Fairmaire, *Rifkindius* Opitz, and *Romanaeclerus* Winkler. Pan Pacific Entomologist, 89 (4): 244-258.
- 酒井 香, 2005. 山梨県大菩薩嶺のカッコウムシ2種. 甲虫ニュース, (151): 16.
- Schenkling, S., 1912. H. Sauter's Formosa Ausbeute. Cleridae (Col.). Entomologische Mitteilungen, 1: 321-330.
- 田中 稔, 1995. アマミマルカッコウムシ沖繩本島に産す. 甲虫ニュース, (112): 7.
- 堤内雄二, 2013. 宮崎県内で採集したアマミマルカッコウムシ. タテハモドキ, (49): 73.
- Yamasako, J. & Ohbayashi, N., 2011. Review of the genus *Paragolsinda* Breuning, 1956 (Coleoptera, Cerambycidae, Lamiinae, Mesosini), with reconsideration of the endophallic terminology. Zootaxa, 2882: 35-50.

(2015年5月1日受領, 2015年6月1日受理)

【短報】佐々治コレクションの中のニセマルハナノミ

ニセマルハナノミ *Declinia versicolor* Sakai et Satô, 1996 は比較的最近になりその存在が知られ記載された種であるが, その存在に気付き, 調べ始めたのは筆者だと思う。しかし, 本種がマルハナノミ科に近縁だと看破されたのは故佐々治寛之博士だったことは, 吉富 (2007) の中で触れている。佐々治博士は, 吉富に宛てた私書の中で, 初めてみた標本だと書かれていたのだが, 今回, 九州大学総合研究博物館に保管されている佐々治コレクションの中に2個体のニセマルハナノミを発見した。これらの標本がいつコレクションに入ったのかは不明であるが, 興味深いと思ったので報告する。

1ex., “[HONSHU] NIKKO” (栃木県日光市と思われる) 11. VII. 1956 M. Takahashi

1ex., “[HONSHU] Mt. Takao, Tokyo” (東京都高尾

山), 9. VII. 1956, M. Takahashi

本種は, 北海道, 本州, 四国から記録されており, 大木 (2014) によりこれまでの記録が纏められている。これによると栃木県および東京都における本種の記録は初めてのようだ。

末筆ながら, 貴重な標本を調査させて頂いた九州大学総合研究博物館の丸山宗利博士にお礼申し上げる。

引用文献

- 吉富博之, 2007. 佐藤正孝先生を偲んで. 月刊むし, (432): 44-45.
- 大木 裕, 2014. ニセマルハナノミの富士山における記録. さやばねニューシリーズ, (14): 14.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)